寺崎組新聞
第百二十四号
発行所　寺崎組新聞社

岩手塾格闘の記

160組会報告

最近、小武川宴会のみの参加でしかなかった今日この頃、オフロー道に気合いを入れる為、未知の岩手を開拓する為、今回の東北塾に参加することをまず、組HPに載せ準備に入る。「大型バイクでも快適なフラットダート多し！！」新聞にある年度予定の記載を信じテネレ号での参加。パニアケースは外し、極力荷物を減らしてのパッキング。前泊は出来なかったため、当日の朝4時30分自宅を出発する。東名厚木IC→首都高→東北道一関ICを目指す。

東北道を北上すると、この前の豪雨で被害が出た鬼怒川を通過。未だに濁流で、土手や河川敷には流されたゴミと、なぎ倒された木々が視界に入りました。改めて自然の恐ろしさを感じ、早期復旧を願いました。さらに北上を続けると、視界がだんだん狭くなりまぶたが重くなる。これはやばい。眠気と戦う気はさらさら無く、そそくさとSAやPAに突っ込み仮眠を繰り返す。関東を出るとやや肌寒くなり、見渡す限りの稲穂が黄金色に輝き、籾殻を燃やす香ばしい匂いが、秋のツーリングであることを実感する。

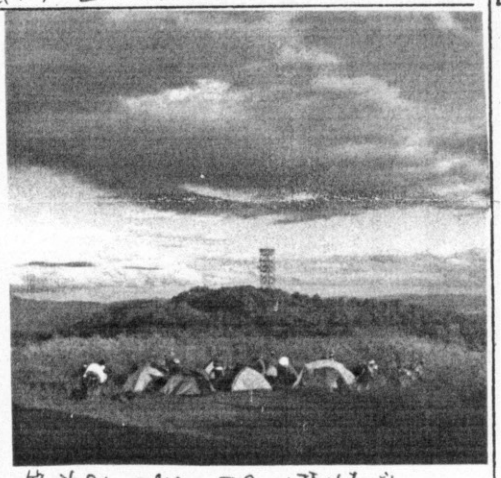
そんな気分で快走を続けると、集合場所である一関ICへは12時過ぎ無事に到着。給油を済ませ、IC出口のコンビニ駐車場へ向かうと、三倉さん（XR250）が待っておりご挨拶。その後、前泊組の赤貧さん（CUB110）、ゴ三浦さん（DR）尾形さん（ジェベル）、アベさん（XR650）が到着、組長（DR250）地下鉄さん（WR250）が順に到着し、今回は8名での塾になります。前泊組には、金子3号さんが参加していたらしく、お仕事で塾には参加できなかったそうです。各々コンビニの駐車場にて昼食を済ませ、地元スーパーでの買い出しの後、いざ戦地いや林道へ進路をとる。

一の関インター出口にたまたまあったコンビニにて待合せ

テネレ号は、後ろから2番手の陣形にて林道へ突入。後方には赤貧さん。前方には尾形さん。かなりのペースで進み、初めは間を開けずに着いて行く覚悟でしたが、轍、浮石、水溜り、濡れた草、顔に当たる草、川になった道、半分崩壊した道、ぬたぬた赤土等、悪路の宝石箱状態が続き、転倒を避けたいあまりかなりのスローペース。尾形さんのテールライトはどんどん離れるばかり。前後ロードタイヤのテネレ号は、空気圧を減らしたくらいで、ニーグリップを怠らず、ほぼ立ち乗りで進んでいた為、足はプルプル、腕はパンパン、汗ダクダクの満身創痍。ギリギリ転倒は逃れたものの、前輪、後輪が埋まる度に赤貧さんのサポートを受け、前に進める事ができました。この場を御借り致しまして、御礼申し上げます。ありがとうございました。（涙）

しばらくすると、視界が開け山の頂上らしきところに、先頭集団（私と赤貧さん以外）がバイクから降りているのを確認。ヤッター（叫）やっと野宿地に到着。安堵よりも、今回は達成感が強い泊地到着でありました。泊地は眺望の良い場所であったため、まず一関？の街を一望してから、テントを張り宴会の開始。風が強かった今回は、焚き火を断念。そして、テントが飛ばされないようペグを打とうとするが、石が多く皆ペグ打ちに苦戦。今回の宴の話題と皆う。風てつま今やり私の

一泊目 全員集合の図。この時まだギリギリ元気なサンペイ氏

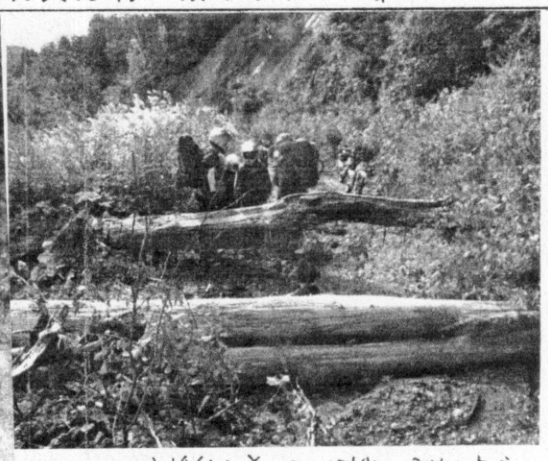

第一泊目キャンプ地の国見山山頂付近にて

しては、三倉さんのストーブの件、東京五輪のエンブレムの件、林道にいた軽自動車の怪、バス停連呼、サハ？クロ？ニモ？の件、ユーチューブ歌謡曲カラオケ（ボリュームの故障）、尾崎豊「15の夜」に対し、バイクを盗むな！と全員一致の批判等々、いつも通り話題は尽きませんでした。泊地は眺望と立木も無く天頂も開けており、ちょうど月が隠れた好条件となったことから、星空観賞タイムが設けられました。全ての照明を消し、満面の星空や天の川そして、人工衛星も肉眼で確認することもできました。ただ、星空に強い人がいなかったためか？あれはもしや、ISS滞在中の油井さんでは？と誰かが呟いたとたん、みんなで叫びながら手を振ったのを微かな記憶に残っています。その後も夜と酒が更に深くなり、宴はいつも通り流れ終了となりました。

翌朝は疲労からの寝坊。一番最後にテントから這い出る。サクッと食事とパッキングを済ませ、2日目の林道へ疲れを全身に残し突入。初めは調子もよく、慣れてきたかと思いきや、直線赤土ヌタヌタ水溜りゾーンの急襲に撃沈し転倒。気がついたら秋空を見上げていました。特に痛みもなく、今日も赤貧さんのサポートを受け再スタート。くじけず先に進むと、皆さんがバイクを止め待っていたと思いきや、倒木と土砂崩壊で先に進めずUターン・・・。オフッ！塾ではUターンなど日常茶飯だが、転倒しながらも登って来た為、倒木を見た時は大ダメージ。何とか方向転換でき元来た道を下る。先ほどの転倒箇所は最大集中でクリア。

しかし、昨日からの疲労が徐々に表ればじめ、腕がパンパンになりバイクをコントロール出来ない状況に気がつく。これ以上皆さんに迷惑をかけるのも申し訳なかった為、山頂からの舗装路が麓まで繋がっていることを組長に確認した後、ここで白旗を上げ一人終戦を宣言するのであった。

引返した地点へ戻ると到着。何度コケたかのスーパーテネレ。


国見山から入った高松能林道にて。土砂崩れ倒木地点でUターン

岩手塾格闘の記　完
第二章「みちのく一人旅」へ続く
記　244号　テネレ三瓶

一関組会一人一言

●岩手県は、林道天国でした！最高でした！（オガタ）
●3ぺいさん、あんたは凄い！（地下鉄）
●今回は組長も無事に復帰を果たし、我々としてもホッとしました。それにしても東北は遠い！。ガレ道やヌタ道をスーパーテネレで走破した三瓶さんお疲れ様でした。皆と別れた後、自分は青森を目指しましたが、最終日は八甲田の野宿地から自宅まで830kmの下道一気走り！流石に堪えました…。（アベ）
●三瓶さん、凄かったです。あんなところでコケてすみません。岩手の星空素晴らしかった。熊避けの歌声相変わらず凄かった。組長元気で何より良かったです。（三倉）
●テネレの後で、土木工事の技術が上がりました。（赤貧）
●二年ぶりの参加で楽しく過ごせました。少しずつ装備が変わったりバイクが変わったりしてましたがみんなのノリは変わらずで安心しました。（元FM佐藤）
●前泊のパターンも含め、すっかり岩手づいて来ました。来年も楽しみです。（ゴ三浦）

第2泊目の朝霧じゃなくてゴミ焼きの煙と朝日です。

第二泊目参加者。サンペイ氏の方[redacted]わりにFM（過去）サトウ氏

岩手塾格闘の記 みちのく一人旅編

一関の山中にて敗北を宣言し、組員と別れ一人下山。さっきまで悪路と闘いながら、冒険感覚での走行が舗装路になった途端、快適なワインディング走行となり、この日ばかりはこんな山中まで舗装されていることに林野庁に感謝・・。組長からの「アスファルトのコケに気をつけなはれや！」のアドバイスを忠実に守り、人家があるところまで無理せず山を下りる。すると、黒滝温泉の看板を発見し迷わずピットイン。昨日からの疲れと汗だく状態の身体を解消したいがため、まだ山中で爆走している組員の方には誠に申し訳なく思いながら、朝風呂で爽快リセット。最高である。とは言え、一人ぼっちになってしまったからには、行き先を考えなければならない。せっかく岩手まで来たのだから満喫するしかない！と思ったことが、後々大きく響くのであった。

よし、もう少し北上してみようと、思い東北道へ再び進入。ふと気が付くと燃料が無いことが判明。ヤバ、重量を心配して昨日の給油で10Lしか補給をしていない事に微かに思い出す。スタンドがあることを祈りとりあえず北上し、前沢SAにてなんとか給油。水道で給水をしていると、テネレのしかも同色が隣に止まる。え？普段あまり見ないバイクなのでビックリ。しかも2台。偶然の出会いでしたが、以前テネレのミーティングでお会いしたことのある方で、ミクシー繋がりの人でした。私のバイクと身なりの泥汚れを見て、唖然と半ば呆れていた感じでしたが、少し立ち話をしてSAを後にする。

岩手山がドカンと前方に現れ、ここで東北道とはおさらば。しかし、まだこの時点で今日のゴールを決められていない。盛岡ICの出口で地図を確認。小岩井か？三陸か？ん～じぇじぇだろ！と、あまちゃんの舞台である久慈を目指すことにする。ちょうどNHKのBSで再放送をやっていたため、まめぶ汁がどんなものか？確かめてみたくなった。コンビニで昼食後、R4を北上しR281で進路を太平洋方面へとると、だんだん濃い緑の山容が近づいて来る。途中、秋祭りの行列や祭り会場を通過すると、山車やお神輿を見かけたが、馬に乗った大名行列、キツ